

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年5月20日

1. 意見陳述申込者

ふりがな
ご 氏名年齢 42 歳 性別 男 女ご 住 所 名寄市

2. ご 意 見

現在建設中のサンルダムに対して名寄市が3億数千万円もの負担金を支払うにもかかわらず、名寄市民に対して全く説明がないことに疑問を感じ、2001年有志と共に「名寄サンルダムを考える会」を立ち上げた。

現在までにサンルダム計画の勉強会の他、開発局に対し市民へのダム計画説明を求め、01年、02年、03年の3回開発局によるダム説明会を開いてきたが、これらの説明会を通していくつかの疑問点が浮かび上がった。

- 1) 毎秒43Lの水道用水の確保は本当に必要なのか?
- 2) ダムによる洪水調節機能は本当に有効か?

名寄市水道事業所は将来の給水人口を30450人と予想し、将来の水不足に備えてサンルダム建設によるさらなる水道用水の確保が不可欠と説明した。しかし近年名寄市の人口は減少の一途をたどり、さらに自衛隊名寄駐屯地の廃止、縮小問題が浮上してきた現在、今後名寄市の人口が再び30000人を越えるまで増加する可能性は限りなく低いと言わざるを得ない。説明会では水道事業所に対し、給水人口30450人という数字の根拠はどこにあるのか、と繰り返し質問したが明確な答えは無かった。

現実から乖離した人口予想を元に立てられたこのような計画は、単なる税金の無駄使いにとどまらず、将来市民に大きな負担を残すことになると考える。

下川の市民グループによる調査では、サンルダムによる名寄川の洪水調節効果は名寄川真勲別観測所（ダム下流16km）で最大約-20~-30cmといわれる。

開発局が名寄で行った過去の説明会で使用した資料の中に、昭和56年8月洪水時の名寄市徳田地区、内淵地区の水害写真が掲載されており、あたかもサンルダムがあればこのような水害は起きないかのような説明がなされた。しかしこれらの水害は内水氾濫によるものであり、サンルダムがあつても防ぎ得ないものではないのかという質問に対する開発局の説明は、我々が納得し得るものではなかった。

名寄川は果たして危険な河川なのかという質問に対し、開発局の回答は「法律上は危険な川である」というものだった。国の基準に合わせて“法律上”危険な名寄川を、“法律上”安全な川にするために、巨費を投じてわずか20~30cm水位を下げる効果しか持たないダムを建設することが意味のあることなのか疑問に思う。

我々市民が求める治水対策は、堤防強化、河道掘削、内水対策などもっと実効性のあるものである。